

東舞子

2016/09/1 (9月号)
神戸市立東舞子小学校
平成28年度学校だより
<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

感動を力に～2学期のスタート～

長かった夏休みが終わり、ひとまわりたくましく成長した子供たちのいつもの笑顔と元気な声が学校に戻ってきました。1学期の終業式で、「長い夏休み、しっかりと計画を立てて、この夏休みにしかできない素敵な、そして有意義な36日間にしましょう。」と子供たちに話をしました。今年は、オリンピックイヤーということもあり、連日放送される日本選手の活躍に、少々寝不足気味の方も多かったのではないのでしょうか。たくさん行われた競技種目の中で、私は、特に体操の男子団体総合決勝が一番印象に残っています。予選は4位と出遅れたものの、決勝に入ってから、演技種目が進むにつれて得点を上げ、最終演技の床運動は3人とも完璧な演技内容でした。チーム最年少で出場した白井健三選手は、演技後のインタビューで、「人生で一番、心臓に悪い日だった。ただその分、間違いなく一番幸せな日になった。」と話していました。自信に裏付けされた彼の演技は、心臓に悪い窮地に遭っても、それを乗り越え、チームを金メダルへ導く精神力と技能が、白井選手には備わっていたにちがいありません。東舞子小学校の子供たちも、オリンピックに出場した白井選手に負けたくないくらい、貴重な経験をこの夏休みにしたことと思います。

さて、この夏休み、私も子供たちに負けじとばかり、たくさんの研修会に参加してきました。その中で、4年後の2020年度から実施される次期学習指導要領について、聞いてきました内容をご紹介します。学習指導要領は、文科省が約10年に一度、学校教育法施行規則に基づいて告示する小・中・高等学校などの教育課程の基準（教科や指導内容等）を示すものです。現在の学習指導要領は今から5年前の2011年度から実施され、「生きる力を育む教育」を理念として掲げています。これに対し、4年後に実施される次期学習指導要領のキーワードは「アクティブ・ラーニング」です。聞き慣れない言葉ですが、簡単に言うと覚えること中心の受け身の学習ではなく、子供自らが能動的、活動的に取り組む学習形態を意味しています。まだ、中教審による検討段階ですが、グローバル化する国際社会や日々流動化する未来社会にも対応できる資質・能力の育成を目指した内容になっています。インターネット検索エンジン大手 Google の共同創始者の一人で、前最高経営責任者のラリー・ページ氏は、「近い将来、10人中9人は、今と違う仕事をしている。」と言い、英国オックスフォード大学マイケル・A・オズボーン博士は、その著書の中で「20年以内に、今の仕事の47%は、機械が行う。」と述べています。国内に目を向けても、少子高齢化の進行が、2012年に65歳以上の高齢者が総人口に占める割合が24.1%（約4人に1人）から、約50年後の2060年には、約4割（約2.5人に1人）に達すると推計されています。このまま人口が減り続けると、約50年後の2060年には、日本の総人口が9000万人を割り込む見通しです。このような事態に直面しても、未来の子供たちには、この課題を乗り越えていく力が必要であるということです。具体的には、小学校での外国語活動の教科化（5・6年生を対象に週2時間実施）やプログラミング教育の導入（小学校では専門に扱う教科は新設せずに、理科の授業などで取り扱う）などが主な改定になります。

さあ、2学期のスタートです。2学期は、音楽会や修学旅行（6年生）、自然学校（5年生）等の様々な学校（学年）行事が予定されています。それぞれの学年の一人一人の子供たちが、自己の目標を定め、友達との関わりの中で大きく育つ絶好のチャンスです。自分を高めるために努力し、その過程の中で仲間の良さを認めながら、達成感や成就感を味わうことができるような学びの場をつくっていくために、職員一同全力を尽くします。まだ、しばらくは残暑厳しい日が続きますが、子供たちの健康管理に十分留意していただきますよう、よろしく願いいたします。 校長 梅鉢 泰博